

河口堰の開門調査要請

よみがえれ長良川実行委 県側は応じず

長良川の環境改善を目指す県内外の29の市民団体で構成する「よみがえれ長良川実行委員会」は27日、県



鈴木宏一郎河川課長(左)に要請書を渡す粕谷志郎共同代表＝県議会棟

に長良川河口堰の開門調査の実施などを求める5項目の要請を行った。粕谷志郎共同代表ら9人

長良川の環境改善求める

岐阜 市民団体など県に要望書

長良川河口堰(せき)の開門と長良川の環境改善を求める29の市民団体・グループでつくる「よみがえれ長良川実行委員会」は27日、岐阜県庁を訪れ、古田肇県知事に対し、「長良川の環境改善を求める要望書」を提出しました。県は県土整備部河川課の6人が応対。実行委は粕谷志郎共同代表

の「遊水地」計画は強行しないなど項目を求めています。開門調査について、県が「農業塩害」の危険をあげていることに對し、粕谷氏は、県の水資源ホームページに掲載された塩水遡上(そじょう)シミュレーションの誤りを指摘し、塩水が農地の取水口まで上がらないことを説明。重ねて開門調査に向けた検討に踏み出すよう求めました。「遊水地」計画については、県が洪水を防ぐために必要な計画だと主張。参加者は「六つの遊水地計画のうち、なぜ横越地域だけ川の中に造るのか。地元住民は過去に道塚(左岸)堤防の決壊を何度も経験しており、造って大丈夫という説明がない。今一度立ち止まって市民の不安や懸念に応えてほしい」と強く要求しました。



説明する事務局の武藤氏と粕谷氏ら 27日、岐阜県庁

長良川河口堰開門調査 国への働き掛けを要請 県に市民団体

長良川の環境改善を求める二十九の市民団体でつくる「よみがえれ長良川実行委員会」は27日、県議会棟を訪れ、鈴木宏一郎河川課長に要請書を手渡し、意見交換した。実行委は、河川環境の改善や漁業への効果を確かめるべきだとして、農閑期に開門調査を実施するよう求めたが、県側は農地への塩害リスクがあるなどとして応じなかった。また、美濃市横越の遊水地計画の見直しや、郡上市の内ヶ谷ダム事業の再検討、木曾川水系連絡導水路事業の中止などを求めたが、県側はいずれも応じなかった。(舌間隆博)

る「よみがえれ長良川実行委員会」は二十七日、長良川河口堰(三重県桑名市)の開門調査を国に働き掛けよう岐阜県に要請した。粕谷志郎共同代表が、鈴木宏一郎河川課長に要請書を手渡した。七月で河口堰の本格運用から二十五年がたったが、実行委は、河口堰で海水と淡水が混じり合う汽水域が変化して生物多様性が失われたと指摘。堰を開門し、環境の変化を調査するべきだと訴えている。県が「塩害のリスクが想定される」として調査に否定的な考えを示したのに対し、実行委は「農閑期の取水しない時期に塩水がどこまで上がるか試してみたらどうか」と提案した。ほかに、揖斐川の徳山ダムの水を長良川や木曾川に流す木曾川水系連絡導水路計画、長良川支流に計画する内ヶ谷ダム建設について、ともに中止を求めた。(藤原啓嗣)



担当者に要請書を手渡す粕谷共同代表(左)＝県庁で